第３学年　英語科学習指導案

日　時　平成12年11月30日　木曜日
学　級　３年〇組（男子14、女子21、合計35名）
指導者　北上市立上野中学校教諭　高橋　明浩

1　単元名　　Let's Read 2 Hello？ Can Anyone Hear Me？

2　単元設定の理由

◎言語材料・言語活動面

新出事項として、目的格の関係代名詞を学ぶ。後置修飾については、Unit5で現在分詞/過去分詞の後置修飾と接触節を、Unit6で主格の関係代名詞を学習済みである。関係代名詞については、中学校段階では主格と目的格の用法のみが必修であるが、全部まとめて教えてしまいたいという指導者の考えから、プリントによってではあるが、所有格のものも説明してある（理解できていない生徒が多いようではあったが…）。本単元の指導内容である目的格の関係代名詞では、省略すると接触節になっている点を理解できればよしとしたい。

また、so ～ that節や、too ～ to不定詞、「ちがいない」という意味のmustなど、target sentencesにはならないものの大切なイディオムも含まれていることから、いくつかの例文とともに教えていきたい。

Target　Sentencesの指導においては、英語に対する意欲を盛り上げるために、指導者がいろいろな場面を考え、機能性に富んだ多くの例文を実際に言わせたり使わせたりして、その有用性に気づかせることが大切であると考える。その一方で、生徒は３学年であることから、文法用語も必要に応じてきちんと使用していく必要があると考えている。

◎題材内容面

本単元は星　新一の短編小説「おーい　でてこーい」という、環境問題をおもしろく小説化した作品を英訳したものである。ある神社が嵐によって吹き飛ばされ、そこにできた大きな穴にある少年が“Hello？ Can anyone hear me ?”と呼びかけてもこだまさえ帰ってこない大きな穴だった。町の人々は、便利なその穴に何年もごみを捨てていたが、それでも穴は一杯にならなかった。ある日、屋根の上で作業をしている人の頭の上から“Hello？ Can anyone hear me ?”という声が聞こえてきた…。「このあと、どうなっていくかな？」とたずねたくなる小説である。

上に述べた文法事項や大切なイディオムはあるが、基本的にはおもしろい物語のストーリー性を追わせる指導をしていきたい。

3　生徒の実態と対策

３年〇組は、学級全体の雰囲気として、「わかっていても反応しない」といった少し緊張気味の生徒が多い。学年の中では、テストの平均点を見れば決して低くはないことから、指導者が「発言しなくても、わかりさえすればいいのだ」という、英語教育には少し物足りな

い（しかし高校入試などには十分な）指導をしてきているせいではないかと思う。この学年の傾向であるが、上位の生徒が多く、下位の生徒でも何とか理解しようと努力している。

授業のレベルとしては、基礎・基本の徹底を意識して下～中位の生徒を対象に指導してきたが、作業の速い上位の生徒が時間をもてあまし、私語をするなどの問題が見られた。そこで、書くなどの作業をさせる場合には、上位の生徒に対するプラスアルファの課題（ワークのページを指示するとか、上位生徒用の発展問題をワークシートにつけるなど）を、「終わった人はこれをやってください」という指示とともに与えることにしている。このことによって、上位の生徒の問題はほぼ見られなくなった。課題の解答をする場合であっても、一般生徒向けは丁寧に答え合わせをするが、発展的なものはサラッと流しても上位の生徒は理解しているようである。

４、本校の研究主題とのかかわり

本校の今年度の研究主題は、『物事を深く考え、表現できる生徒の育成　～総合的な学習をはじめとする全教育活動を通して～』、端的に言うと「生徒の思考力と表現力をどう育てるか」である。

これを英語の授業にあてはめて考えると、思考力育成のためには「こんな場面ではどんな英語を言えばいいのか」「この発話をしたときの、発話者の意図は何か」「なぜこの英文はこの形になっているのだろうか」などの問いかけが必要である。この問いかけによって、生徒はただ覚えるだけの英語から、身につけるための英語として授業を受けてくれるのではないかと考える。

一方、表現力育成のためにいつも取り組んでいることは、授業始めのSmall Talkである。生徒には常々ヒントを与えるなどして「即問即答」を心がけさせ、どうしても英語でいえない場合には日本語で答えさせることもあるが、その内容が既習事項である場合などは（カラクリTVのセイン＝カミュよろしく）“English, please.”と突っ込みを入れることとしている。また、パタンプラクティスにおいて「こういうときは何て言えばいいかな？」というcueによっていろいろな場面を与えて、多くの英文を言わせることにしている。書く活動については、プリントによるものが多いが、少し不足がちかなという気がする。

先日、東京で開かれた第50回全国英語教育研究会に参加させていただくチャンスがあり、「書く力をつけるための方策」についての一つの回答が得られた。三鷹市立第四中学校の田口先生という、2,000人以上もいた全国の英語教師の前で授業をなさった先生であるが、彼によると「書く力を本当につけるためには、やっぱりミニテストを重ねるしかないと思う」とのことであった。このほか、彼のすばらしいアイディアについては、研究会の席上でご紹介したい。

５、単元の目標

◆言語材料・言語活動面

・目的格の関係代名詞の用法と意味について理解することができる。

・so ～ that節や、too ～ to不定詞、「ちがいない」という意味のmustなどの重要なイディ

オムを理解し、英文で表現することができる。

◆題材内容面

・“Hello？ Can anyone hear me？”のストーリーの流れを理解することができる。
・この小説を通して、ごみ問題について（日米比較も含めて）考えることができる。

６、指導計画（8時間）

・全文の聞き取りと概略把握　　０.５時間
・P.57のプリント　　２　時間
・関係代名詞の目的格/ P.58のプリント　２　時間（本時１／２）
・P.59のプリント　　１.５時間
・P.60のプリント　　１.５時間
・Let's Tryとまとめ　　０.５時間

７、本時の指導

⑴　本時の目標

〇Small Talkにおける教師の質問を理解し、即答することができる。
〇目的格の関係代名詞の復習を通して、構造・性質とともに、接触節との関わりを理解できる。
〇P.58の単語・イディオムを発音でき、意味を理解できる。
〇P.58の内容と雰囲気を理解することができる。

⑵　指導の構想

本時では、細かくステップを踏んで本文の理解をめざし、最終的には男の子が穴にビー玉を投げ込んだ場面から、ごみ収集車がごみを穴に捨てるようになったいきさつまでを理解できるまでをねらう。作業の場面では（いつも通り）努めて教え合い学習を行わせ、全く活動しない生徒がいないような工夫をしていきたい。さらに、「赤信号、みんなで渡れば恐くない」的な、安易な発想の是非について考えさせたい。

実際の指導では、次のような下位行動目標を設定し、①～⑥まで段階的に指導していく。

⑦　本文の英文を聞いて、穴埋め（ディクテーション）ができる。
⑥　本文の内容について述べられた英文を聞いて、その正誤が判断できる。→TFチェック
⑤　本文の内容について書かれた英文に対し、英語で答えられる。→Q&A（上位生徒のみ）
④　指導者による本文の説明を聞いて、大切な部分に気づいてメモすることができる。
③　PCを見ながら本文を聞いたあとでプリントの穴埋め（和訳）を解くことで、p.58の内容が分かる。
②　新出単語・イディオムの意味と発音が分かる。
①　目的格の関係代名詞 that の使い方と、それが省略されると接触節になることがわかる。

⑷　本時の展開

段階	学　習　内　容	学　習　活　動	時間	支援上の留意点
導入	1 あいさつ	・元気よくあいさつをする。	1	
	2 Small Talk	・教師の英問３つに英語で即答する。 － － －	9	・一つの質問は、数名の生徒にする。 ・答えられない場合は、教師の例をヒントとして与える。 ・できれば、追加の質問をする。
展開	3 目的格の関係代名詞 that の導入	・簡単な英文二つを示し、関係代名詞を用いて一文にする作業を見せる。 ・キューを与えて、目的格の関係代名詞を含んだいくつかの英文を言わせる。	7	・板書しながら行う。 ・P.58の基本文に、修飾関係を記入させる。
	4 新出単語の導入	・フラッシュカードを見て、教師の後について発音する。	7	・発音記号をできるだけ活用させる。 ・フラッシュカード使用 ・トラップを設ける。
	5 P.58の本文の理解	・CDを聞いて雰囲気をつかんだ後、ワークシートの日本語の空欄を埋める。 ・上位の生徒はQ&Aに取り組む。 ・教師の問いに答えながら解答する。 ・TFチェックで聞き取りながら内容を確認する。 ・ディクテーションで空欄を埋める。 ・ワークシートで自己評価を行う。	25	・CDリピーターとPC使用 ・教科書使用 ・助け合いを推奨する。 ・Q&Aは答を簡単に言うのみ。 ・教師が読む。 ・1・3回目はCDで聞かせ、2回目は教師が読む。
まとめ	6 次時の予告 7 あいさつ		1	

⑸　評価の観点

・Small Talkにおける教師の質問を理解し、即答することができたか。

・目的格の関係代名詞の復習を通して、構造・性質とともに、接触節との関わりを理解できたか。

・P.58の単語・イディオムを発音でき、意味を理解できたか。

・P.58の内容と雰囲気を理解することができたか。